

「もっと知ろう大腸がん～知れば知るほど怖くなくなる」神戸で市民公開講座

講演2「大腸がんに対する外科治療の進歩」

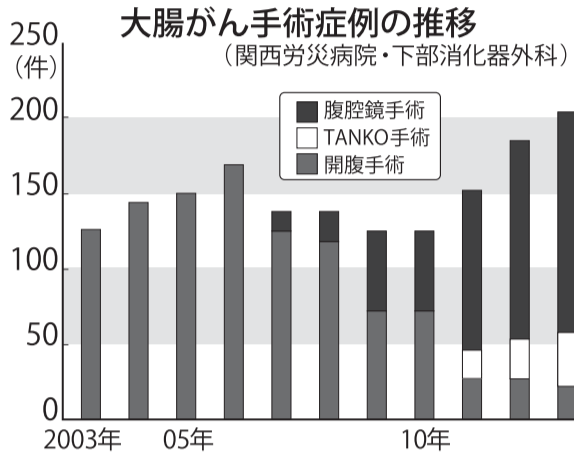


加藤 健志氏

関西労災病院下部消化器外科部長

外科治療はがんを体から切り取るもので、大腸がんを完全に治す唯一の方法だ。ただ、切つても再発することもある。最もがんが進行したステージ4でも手術をすれば治る可能性がある。がんが表面の粘膜内または粘膜下層に少くとも浸潤しているステージの範囲を広げてリンパ節を切除し、転移を起さないうちで内視鏡でがんを切る。肛門に近い直腸に

体に優しい方法選んで



手術後は、早期がんでも半年に1回程度、再発がないかを検査する必要がある。早期で見つかった場合は極力肛門を残して排便機能を温存する手術が開発されている。リンパ節転移があれば術後再発しないように抗がん剤で治療を追加する。その方が生存率も明らかに高いというデータが出ている。進行がんの場合、以前はおなかを縦に大きく切つて開いて手術を行っていたが、現在は直径1センチ程度の小さな穴を複数開け、先端カメラでおなかの中を見ながら手術を行う腹腔鏡手術が主流だ。細かい血管や神経を拡大してみることで、患者にとっては傷が小さく、痛みも少ない。保陰適応になっているが、大腸がんの手術症例のうち、6割弱にとどまっている。手術が複雑であることなどがその理由だ。何より早期発見、早期治療が重要だ。血便や腹痛がある人は内視鏡検査を行い、症状がない人は毎年検診を受けてほしい。

早く見つけて 正しく治そう

日本人の2人に1人はかかるがん。中でも大腸がんは食生活の欧米化や生活習慣の変化などの影響で年々増加しており、日本人のがん部位別死因の第2位を占める。インターネット上を飛び交う多くの関連情報に迷われないためにも、専門医が最新の正しい情報を紹介する市民公開講座「もっと知ろう大腸がん―知れば知るほど怖くなくなる」がこのほど、神戸新聞松方ホールで開かれ、4人の専門医が大腸がんの症状や治療法について分かりやすく講演した。

講演1「大腸がんのイロハ」



小高 雅人氏

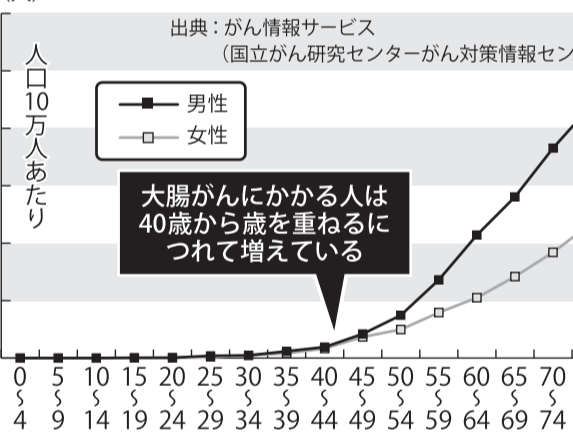
一生の間がんになる確率は男性が54%、女性が41%だ。部位別で見ると、昔は圧倒的に胃がんが多かったが、大腸がんが近年大増えしており、がんの部位別死因では女性第1位、男性で3位と、最も内側にある粘膜から発生する。大腸は消化管の一部で肛門の手前であり、食べ物の残りの栄養と水分を吸収し、そのほかの成分を肛門に運ぶ役割がある。大腸がんは大腸の壁に出血があり、これを痔のせいだと思いついていて人が多いので注意してほしい。このほかにも便が細くなる、便が残つていく感じがする、おなかや腸が膨らんでくる、など大腸がんのリスク要因としては遺伝的な要因、肥満や飲酒、加工肉の摂取なども考えられる。予防法としては運動をし、野菜を食べるよう

便潜血検査で早期発見

早期がん(ステージ1)の段階で治療すればほとんどの人が治るが、早期段階では自覚症状がないため、検診を受けて早期発見することが重要だ。検診では主に問診と便潜血検査を行う。便潜血検査で便に血が混じっていないかを調べる。大腸がんの疑いありと判定された場合、内視鏡などを使って精密検査を受ける。大腸がんは、腸の壁をどこまで深く破っているか、リンパ節に転移があるかなどを調べてステージ(進行度合い)を判断する。ステージに応じて治療法は変わってくるが、手術療法、化学療法、放射線療法が代表的だ。早期がんの場合、内視鏡を使ってがんを切除する。リンパ節にまで転移している場合はリンパも切除する手術を行う。その場合、かつては開腹手術をしていたが、現在では腹腔鏡手術が普及しており、体への負担は少ない。

か、リンパ節に転移があるかなどを調べてステージ(進行度合い)を判断する。ステージに応じて治療法は変わってくるが、手術療法、化学療法、放射線療法が代表的だ。早期がんの場合、内視鏡を使ってがんを切除する。リンパ節にまで転移している場合はリンパも切除する手術を行う。その場合、かつては開腹手術をしていたが、現在では腹腔鏡手術が普及しており、体への負担は少ない。

大腸がんの年齢別罹患率(2011年)



4人の専門医が大腸がんの症状や治療法について分かりやすく講演した市民公開講座=神戸新聞松方ホール

まとめ



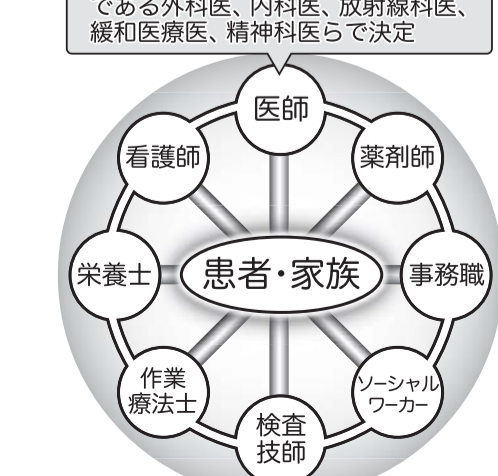
掛地 吉弘氏

日本人の平均寿命は2014年で女性が86歳、男性は80歳で世界一の長寿国だ。100年前は42歳ほどであり、2倍に延びたことになる。平均寿命は0歳時点での平均余命だが、80歳まで生きれば人は男性でさらに9年、女性は12年余命がある。一人一人異なるので生活習慣、環境要因に気を付けることである程度予防できる。神経質にならず自分に合った暮らしを

適度な運動、快便快食を

脂質を多く摂取すると消化酵素である胆汁が多量分泌される。この胆汁に含まれる胆汁酸が腸内の発がんに関与していると考えられている。食物繊維が不足すると便が腸内にどまる時間が長くなり、発がんリスクも高まる。高脂肪食を控え、食物繊維を多く摂取し、適度な運動、快便快食を心掛けてほしい。

がんのチーム医療



主催：神戸新聞社、中外製薬

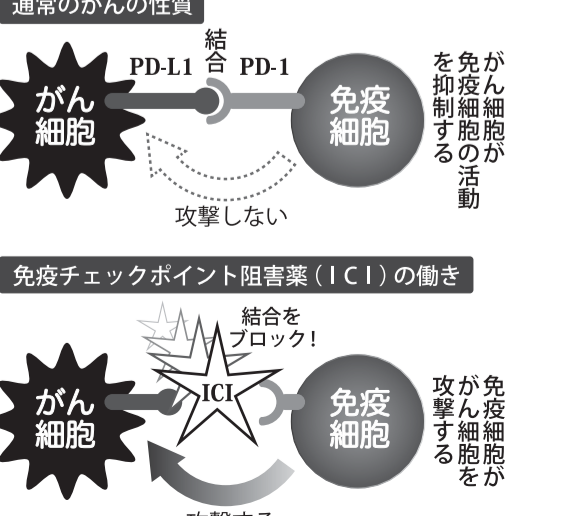
講演3「こんなに良くなった大腸がん化学療法」



辻 晃仁氏

かつての抗がん剤は「髪が抜ける」といった大腸がんにはほとんど効果がなかったが、近年は新しい抗がん剤や「分子標的薬」と呼ばれる新しいタイプの抗がん剤などが次々に開発され、治療効果が高くなってきた。だが、いまだに「抗がん剤は副作用が強く、効果が少ない」といった古いイメージがまだまだ残っている。確かに薬には副作用があるが、その副作用を抑える薬を併用すれば、治療効果を最大化することができる。さらには同じような副作用が重ならないように、薬の種類や組み合わせを選ぶことで効果を高めることができるようになった。

効果の高い新薬が続々



副作用には「食べられなくなり」「吐き気が強い」「イドランに、大腸がん神戸市立医療センター中央市民病院腫瘍内科科長 香川 大医学部臨床腫瘍学教授